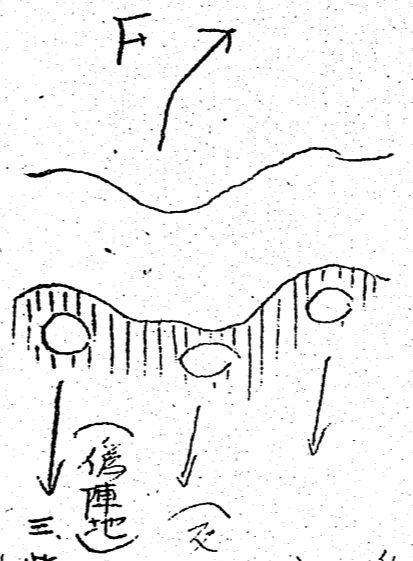


2 我が一據点ニテ敵ニ攻取ラセラルトモ、附近所在ノ據点ニ在ル部隊  
 ハ敵砲爆撃ニ逼逼塞スルコトナク斜射、側射、背射ヲ以テスル火  
 カ急襲ニ依リ断片之ヲ撲滅セラルハコトス。之ガ爲各據点間ニ巧  
 ミニ偽装セル一部、自動火器ヲ機敏ニ行動セムルハ或ハ待機セシメ  
 敵ヲ急襲スルコト有利トス  
 3 徹底セル又斜面陣地ニ據ル背射、戻行  
 地形ヲ利用シ左図ノ如ク又射面ノ陣地ヲ占領シ敵火(戦車砲ヲ含意)  
 損害ヲ避ケツツ我ガ自動火器、威力ヲ瞬間的ニ発揚シテ敵人員ヲ  
 大量的ニ撲滅ス



偽陣地ヲ以テ敵火ヲ吸收シ且敵注  
 意ヲ牽制ス  
 偽装、遮蔽ヲ履全ニス  
 時間、餘裕ナキ時ハ砲壺陣地ヲ  
 可ナリ  
 三此ノ陣地ハ比較的遠ク進ミタル也、陣地ヨリ  
 ②過去第一線防衛不戦斗ノ成敗ヲ顧ミ如何ナルモ、ガ成功ニ如何ナルモ  
 ノガ失敗セシマ(五月十二日)

一 判決

指揮官、精否就中、其ノ気魄ト職職場努カ、如何ニ依リテ決ス  
 二 精強ナル指揮官ハ如何ニ行動セシヤ  
 人必勝ヲ確信シテ敵ヲ志シテ克ク此、信念ヲ部下ニ徹底シ常ニ積  
 極敢果主動的戦ヲ遂行ス  
 之率先陣頭指揮ヲ執リ腹案ヲネリ善謀部下ヲ指揮ス  
 3 常ニ敵ノ弱兵ニ乘ジ機先ヲ制ス  
 4 部下ノ掌握、確実ニシテ常ニ職場教育ヲ施シ世息ニ傳ヘズ最  
 後迄散斗ス  
 5 阻盜ナル企圖心ヲ発揮シ創意ヲ天ヲ疑ヒシ活流ニシテ其現ス  
 6 他方ニ依頼スルコト無ク而モ上下左右ノ連絡ヲ密ニシ近傍部隊ノ戦斗  
 ニ積極的ニ協力ス

戦車は、何れも、敵の戦車に  
対して、威力を、示す、目的、を、以て、

戦車周到ナリ戦車砲は、一定ノ距離ニ至ル

薬肉攻威力大ナリ  
着伏肉攻

地形ヲ利用シ特ニ夜間通過點概テ一定ニ定ル附近遊動的

ニ適時隠蔽行動セシム可トス

3. TA 消耗 4. 耗ハ有効ナリ、M4 級ニ對シ

但ニ射撃手開始後我ニ殺傷ヲ受クルヲ以テ初發必中ヲ期スル共迅速ニ陣地變換ヲ必要トス

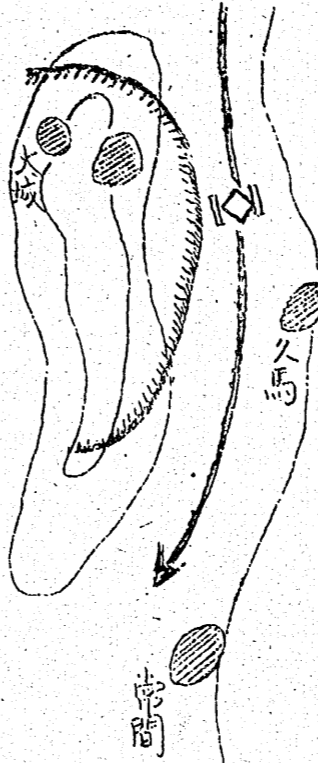
4. 特殊ノ快速射砲 M4 級戦車ニ對シ秘匿陣地ヲ至近距離ニ待射ヲ射撃ニ威力大ナリ

(例) 四月四日ニ、口嶺大川東南ハ五高地ニ對シ M4 級戦車五両ハ、川ヲ以テ

攻撃シ來ルニ對シ 4. 耗速射砲發射彈ニ、口ヲ以テ攔坐ニ、炎上ニ、大破ニ、戦果ヲ得シ

5. M4 級戦車破容易  
6. 攔坐ニ、口ヲ以テ敵ニ、隨時牽引車ヲ運搬ニ、修理ニ、シ

二 M/M4 戦車踏破力輕視ヲ許サズ  
 地形上困難ト思惟スル方面ニ於テ地形判断ヲ周到ニ對戰車組織ヲ怠  
 ルカラス G2D 最初ノ北主陣地ニ對シテ爆藥ヲ令リ準備セザリキ地形高地ニ多  
 三 陣地編成ニ方リテハ悉ク對戰車ヲ主トスルヲ要ス  
 賀谷支隊ハ秋道大城附近ニ取テ同陣地ヲ占領シテモ敵戰車ハ四月三  
 日ヨリ東側ノ久馬方向ヨリ侵透シ遂ニ四月四日口九ノ頃常間平地ニ進出セリ  
 對戰車組織無キ從來ノ高地ノ針卷陣地ハ無能ナリ



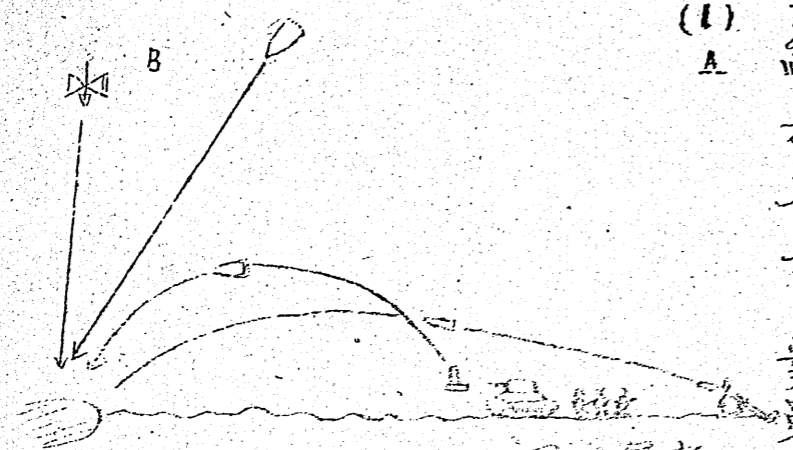
即チ敵戰車通過豫想點ニ據點ヲ構築スルヲ要ス  
 四 敵歩戰分離ノ策スルニ單小銃MG限定セズ擲射火器即チB.A.M.M.L.M.W.等ヲ  
 活用スルヲ要ス

一 戰車眼鏡裝備

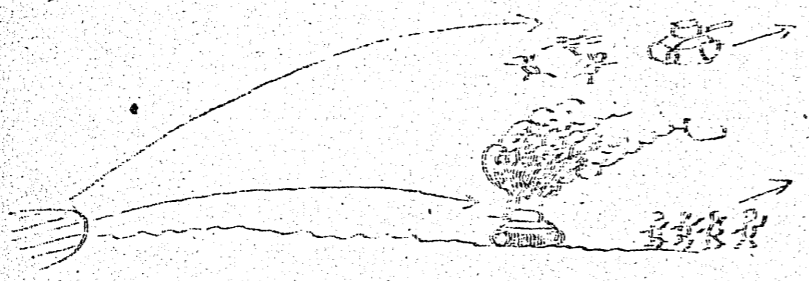
八倍眼鏡ヲ以テ偵察ニ疑ハシ時更ニ二十倍眼鏡ヲ搜索スルヲ以テ擬裝ノ徹底ヲ  
 必要トス

沖繩ニ於テ實施シテ對戰車戰術ノ例

(1) A

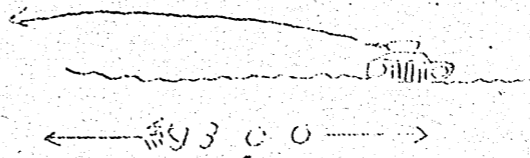


敵戰車ニ對シテ  
 偵察ニ疑ハシ  
 時更ニ二十倍  
 眼鏡ヲ搜索ス  
 ルヲ以テ擬裝  
 ノ徹底ヲ必要  
 トス



擲射火器ヲ以テ  
 擬裝ノ徹底ヲ  
 必要トス

(II)  
A



步兵の發射は行戦の戦車に陣前  
 三〇米距離に對しては對地  
 底の射撃より後歩兵の招致と同  
 三〇米距離に對しては  
 夕刻に戦車は約五〇米後退す

B

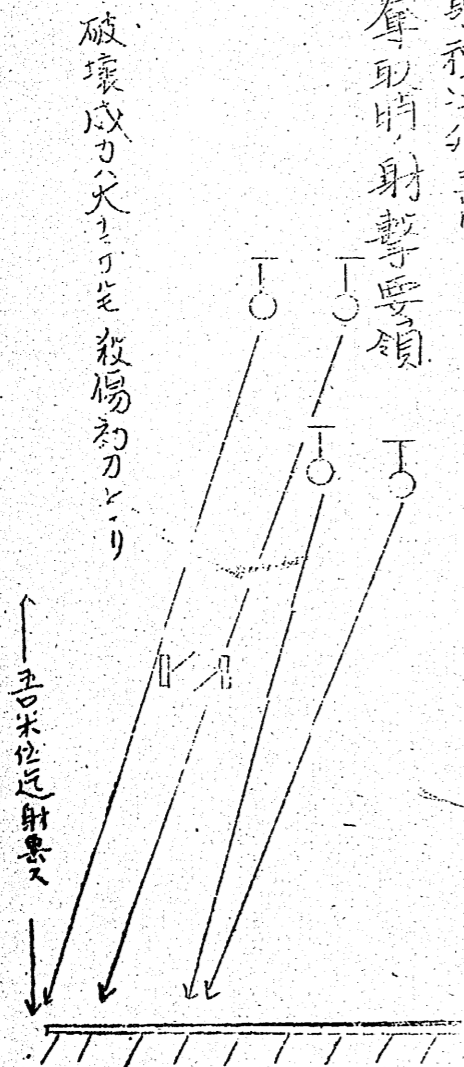


戦車撤退は追尾に終路に對地  
 當り埋設スル肉攻に對しては  
 破壊容易ナリ  
 陣前約百五十米乃至三百米の  
 車射撃地城又陣地に對しては  
 有効距離外に豫め肉攻を準備  
 スル必要アリ

其の五 對追戰闘

一 敵の迫撃砲就テ  
 大陸上火力戰闘の主体ニシテ我最も苦痛トモ所ナリ  
 又迫撃砲の特點

- 一 遮蔽陣地（A）射撃有利ナシ
- 二 彈量豊富炸裂力大（精神的感作大）
- 三 發射速度大
- 四 警戒至嚴ニテ攻守訓練不十分の場合夜間射撃に成果を取ル困難
- 五 我が前線陣地奪取時射撃要領



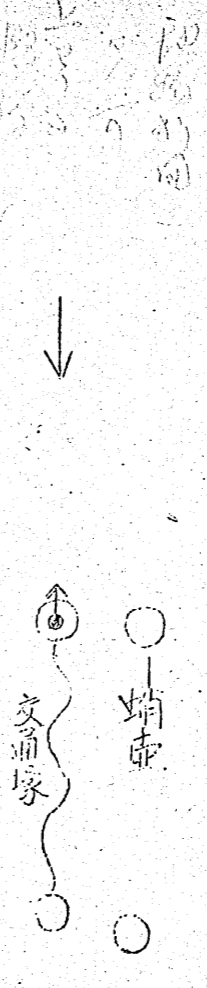
破壊威力大ニシテ殺傷初力ナリ

五百米距離射撃ス

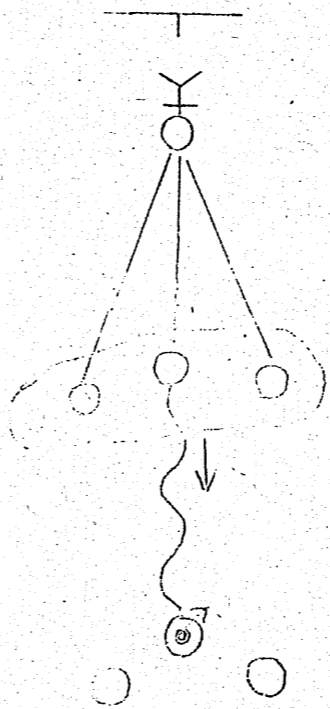
三 創意工夫ニ依ル竊壺陣地利用ノ戰法

左記戰斗法ハ沖繩ニ於テ創意實質ニ効果ヲ收メリ時間ノ余裕ヲ限リ實地ニ勉ムル可トス

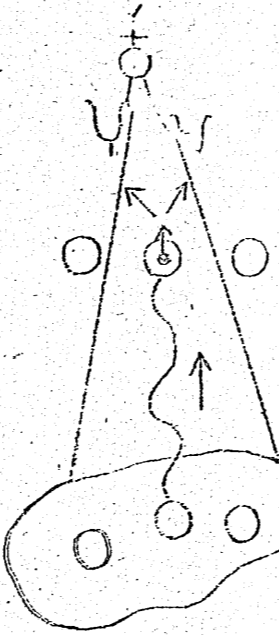
一 前後左右多數竊壺陣地ヲ設ケ前後ニ數條、交通壕ヲ設ケ



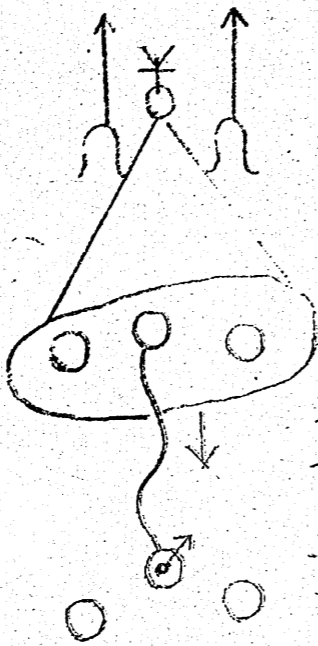
二 敵迫撃射撃時後方竊壺退避



三 敵迫撃射程延伸ナル時前方ニ進出シ瞬間射撃ヲ殲滅ス



四 敵歩兵後退シ迫撃射撃ヲ再発シ續續返撃シ直ニ後方竊壺ニ後退ス



其六 砲兵

一 軍砲兵隊優勢ニ敵砲爆撃ヲ對處ニ真善戰ス  
其主因ハ如シ  
一 砲兵司令部以下ノ素質優秀

二 砲兵築城  
又各方面對陣地ヲ構成シ當初ヨリ全砲兵統一指揮下作戰準備同列リニテ

ノ作業及材料ハ多量ヲ要シ且技術ヲ必要トスリ以テ兵隊配屬ニ共ニ材料補充スニ遺憾モテ要ス

又陣地配備砲爆撃下ノ通信連絡確保能ク否ヲ觀慮ス決定スルコト

又歩砲一體陣地ニ可トス時ニ步兵聯隊大隊長ト觀測所ヲ設ケム

又十五糎榴彈砲以上有窟陣地ハ徑四十糎以上ノ木材及コシリートニ依ル

開口部ノ強化ヲ必要トス

發度小ト時砲爆撃埋没ニ發掘機力ノ時間ヲ要スリ以テ寧ロ野戰陣地奇トス

偽裝完全ノ野戰陣地ハ好機ニ乘リ射撃ヲ適機利用時有利ナリ

洞窟大砲陣地ノ開口部ニ竇以上ヲ設ケ進入進出路及隊備陣地多數構築

必要ナリ

又偽陣地ハ效果大ニシテ多數構築スニ要アリ

又偽陣地ニ於テ陣地補修無線通信偽砲火等ヲテモ長期敵聲ヲ吸收ス

又陣藥特裝藥ハ砲聲ニ依リ損害ヲ觀慮シ坑道内ニ防火警設置分散スニ

### 三 砲兵陣地

砲兵陣地ハ各所ニ上陸ニ敵對シ主力陣地ヲ準備セリ以テ最モ活動ヲ得リ

又觀砲間隔大ニテ適當ナリ

又ハ射線多ク無線ニハ時機ヲ失ヒテ以テナリ

又畫間ニ於テ洞窟陣地ヲ準備セモハ射撃ヲ得

又陣地交換後射撃開始ヲ得ルニ夜ヲ要スリ豫メ準備畫間ニ畫間敵襲

露島ニテ破碎セル約二〇〇米 SAノ機動砲(例)

### 四 砲兵射撃

又畫間砲兵如何ニ射撃スベキヤ

又陣地(洞窟)ニ於テ射撃可能ナリ然レ共數倍ノ報復射撃ヲ覺悟スニ要ス

又敵ノ觀測機(艦砲協力)不在又ノ視界外ニテ時期ヲ捕捉ス

又強行スルモ(畫間射撃ニ協力)

AAノ協力下射撃ス

又敵飛行機ニテ即チ敵制空ヲ斷

又夜間

陣地へ隨時射撃

2. 陣地より砲兵の射撃は夜間雖も艦砲飛行機多し破砕せしむ

4. 敵軍用品の集積所焼夷、為焼夷時、必要性大なり

5. 持久戦の兵則時、彈藥を節用する要、本島に會戦分り而も不足なり

6. 測地

砲兵の砲兵能力發揚に貢獻あり

砲兵の眼座標を合算する有効に利用あり、陸海空合算する眼入地

圖の取備を更なり

三. 戰績の思ひに於ける指揮官の行動は如何なるにありや

1. 敵情に其の火力威力を恐れし諸施策積極的なり

2. 積極的の自ら策案を講ずる少く或は下僚委せたり或は非觀的ナル部下部隊、報告意見にミニ耳ヲ傾ケ自ら狀況ヲ判断し最良ノ策案ヲ

執ル、努力ヲ決断シテ戰局、推移、儘ニ指揮ス

3. 敵良所、ミニ見テ弱点ヲ見ズ處置常ニ場方のミニ先、牛ヲ打傷

4. 部下、掌握不確實ニシテ被害ヲ懼し逼緊シ部下使用姑息ニ流シテ必

要ナル戰術的處置ヲ實行セザル為初半全般の損失ヲ大ニシたり

ナ企圖心ト創意ニ乏トシテ同ニ失敗ヲ繰返シ終始ス

6. 協同戦斗ニテハ他力本願ニテ他隊、戦斗ニ協同シテ敵ヲ要破スベ

キ機會アルヲ察シテ傍觀ス

他隊戦斗思ひに於ける時、道義的ニ退却的ニナル

以連絡悪シ又情況急変処置ナキニ至リ非觀的報告ヲナスコト多シ

四. 歩兵戦斗ニテ如何なるモノカ、結果ヲ擧げテありや

洞窟陣地ニ逼塞セズ直接戦斗時主カハ樹壙陣地ニ依リ連絡テク我  
ガ火カヲ発揚シヤルモノ

之損害ヲ顧ミズ常ニ有カナル部ヲ樹壙陣地ニ置キ敢言ヲ嚴チヤルト  
共ニ敵ノ弱点捕捉ニ努ミ機ヲ失セズ之ニ乘ズ

3. 重兵器損耗スルモ克ク之ヲ掌握シ統ヤル至短時間、火力急襲  
ヲ行ヒ敵ノ侵透ヲ許サズ

4. 他方面又ハ渗透シテ敵陣ニ忽然ト入リ之ニ斜射(北)射ヲ行ヒ得ル如  
ク處置シ果敢ニ之ヲ遂行ス

5. 戦車ニ対シハ煙ヲ利用、砲兵射撃ニ依リ歩戦分離ヲ  
行ヒ積極的攻めヲ敢行ス

6. 戦車來ラザルヲ待テ、部署ハ執ラズ創意工夫ニ依リ戦車來ルヲ待望  
スル、部署ヲナス

7. 効果的ナル軌込、待前進備ヨリテリテ機到レバ之ヲ投入シ悠々トシテ  
戦果ヲ擧ゲ

8. 洞窟内逼塞  
損害ヲ避ケントシテ却ツテ大ナル損害ヲ受シ而モ敵ニ打撃ヲ與ヘズ

9. 砲身等兵器使用ノ抑劣  
1. 指揮官、統火力急襲トシ

2. 側射背射実施、部署ヲケク  
3. 敵ノ報復射撃ヲ懼レ好機アルニモハラス射撃ヲ行ハズ

4. 敵ノ砲爆ヲ懼レ陣地山嶺ハ徒ラニ積極的トナリ全員反射面ヲトリテ敵ニ  
射撃ヲ與ヘ得ル陣地トシ領ヲナサズ

5. 他部隊トノ間隙ヲ渗透セラレテリ  
6. 他隊、正面ニ線ミ來ル時ハ側射、好機(敵兵、行動ニ鑑ミ)

7. 二モ拘ハラス之ヲ行ハス  
指揮官敢然トシテ之ヲ命スル必勇マルニモ拘ハス自己ノ位置発見ニ

8. 二依ル敵火力ノ報復ヲ恐レ之ヲ實施セズ  
9. 戦車來ラザルヲ待テ、部署ヲナレアルコトニ三輛、戦車ニモ陣地ヲ奪  
取テズ



6. 敵進出時、弱点(橋梁通過所)に自働車行動戦車を随伴スル  
ル(原集兵等)ニ乗スル射撃ヲ行ハス  
公 砲兵依存主義ニテ砲兵射撃ハ諸行動ヲ躊躇ス

神泉ヲ收メテ一線大隊、戦闘(五月十七日)

- 指揮官、威徳ニ依リ部下ヲ掌握ス  
第一線、通信連絡意、如クナラザル狀況ニ處シ指揮官率  
先陣頭第一線陣地ニ位置シ部下ヲシテ、大隊長  
(中隊長)ニアリ、壕ニ居ル、精神的連絡系ニ依リ部下ノ掌  
握可能ニシテ連絡亦確保サル
1. 一、地、守備兵力密度ヲ大ナラシムコトナク火力組織ヲ周到  
ニシ、要點ニ對シ火力急襲ヲ準備ス
  2. 一、地、守備兵力密度ノ大ナルハ敵迫撃砲ニ好餌與フ火  
力ヲ吸引スル地點、配備ハ極力之ヲ避ク
  2. 大隊長、晝間戦闘終了スルヤハ明朝以後ニ示シテ敵攻撃  
要領ヲ判断シ先ヅ之ニ對シ火力組織ヲ決定シ次ニテ各部隊ニ  
任務(陣地、火力)指向協同要領ヲ的確ニ與フ
  3. 要點ニ對シテハ火力急襲ヲ準備ス
  4. 各陣地相互、支援火力ヲ指定ス即チ並列ニシテ陣

地相互、側防及後方陣地ヨリ前方洞窟陣地上、側防等  
ニ洞窟陣地、監視ハ常ニ行ヒ哨臺陣地ハ、戰闘轉移ハ時機  
ヲ失スルコトナカラム洞窟ニシテ馬乗り攻撃ヲ受クハ戰闘力ヲ  
喪失ス

故ニ守兵、約三分一ヲ哨臺陣地ニ置キ監視(自分陣地、ミナラズ  
隣接陣地前ヲモ令ム)ヲ嚴ニ敵歩戰ノ奇襲ニ備フ

哨臺陣地ノ活用

戰闘陣地、主體ハ哨臺陣地ナルハ、歴戰諸隊ノ一致セル意見ナリ故  
追撃破、射撃を終了シ引續キ機ヲ失セズ主力之ニ移リ戰闘ス  
哨臺陣地、縱深配備ニ依リ相互支援ヲ圖ル(火力組織四層)  
五對戰車処置

戰況困難ナル場合ニ於テモ、創意工夫萬策ヲ講スルヲ要ス

1. 肉攻配置ハ前日、戰車出入経路前日ニ輜ヲ以テ偵察スルコトモ  
ヲ承知シ、救匪配置ス(事前配置緊要)

2. 肉攻手ニ支援火力ヲ準備ス

3. 心歩戰分離ヲ圖ル

4. 戰車猛威ヲ振ヒアル時ハ豫メ準備セル発煙ヲ活用シテ之ヲ蔽ヒ  
肉攻ニ攻撃ノ機會ヲ與フ

5. 手段無キ時ハ擲彈筒射撃子(履帯破壊機因部用機ニ兼ミ  
炎上等直接的効果アル外破裂威力ヲ恐遁走ス)ヲ實施ス(乱用  
ニ陥ラザルコト)

六 斬込

即興的ニ命ズルコトナク事前ニ教育シ方登ニ際シテ、單ニ地圖ニ依ルコト  
ナク現地付詳細教フ之レ効果ヲ收ムル所以ナリ

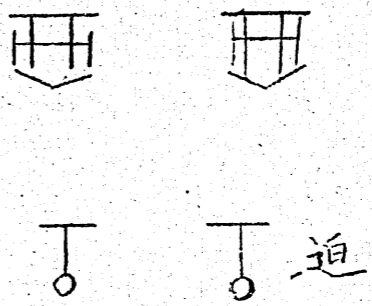
七 且教(且戰)

戰況之ヲ許ス限リ夜間ニ於テ晝間ノ戰闘ヲ講詳シ明日ノ戰闘法  
ヲ教フ

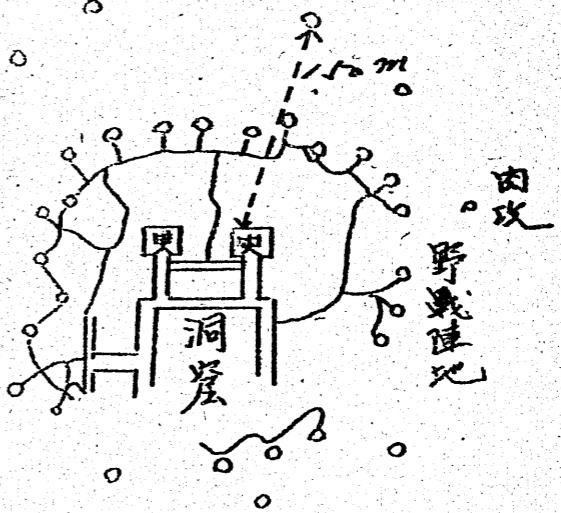
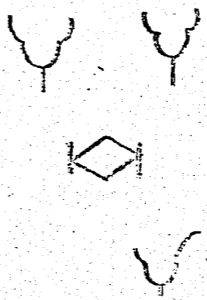
◎ 我第一線防禦戰闘ニ於テ良好効ヲ收ムルハ如何ナルモ、カ

1 指揮官ノ良否第一ナリ(勇敏志練)

2 敵ヲ恐ク其ノ弱點ニ乘ズル志



敵近接時 步兵三分一 哨壘



迫撃砲ノ射撃中止時主刀哨壘ニ飛ビ込ミ戰鬪ス

3 堪ヘズ部下ヲ指導シ志氣ヲ昂揚シ戰鬪法ヲ克ク徹底スルコト  
第一線ニテハ洞窟内ニ於テ教育ヲ突砲ニアリ

4. 敵ノ侵入初動ニ於テ破潰スルコト其備法有能ニ指揮官ノ前

面ニニ敵來ラズ敵一度打撃ヲ受クテ消極的トナル

5. 重火器ヲ有効ニ使用スルコト大隊長ハ火力集中ヲ指導スルコト

緊要アリ

6 好機ニ投ズル射撃

晝間敵ノ砲撃下ト雖モ各氣ル敵ノ行動ニ乘ズベキ隙多アリ

洞窟ニ遠塞セバ発見シ得ズ

一有

其ハ 通信

一有線ハ彈雨ヲ冒シ晝夜保線ヲ強行スルニ依リ通信ヲ確  
 保シ得然レドモ敵ノ砲爆下ニ在リテ通信可能ノ時間ハ通中  
 短少ナルヲ以テ一度保線完了モ通信部隊ハ直ニ之ヲ司令  
 部(部隊)ニ通報シ通信機ヲ速セザラシムル如ク急ムルヲ要アリ又電  
 話使用者(通話者)ハ簡潔明瞭ニ通話シ終語モ直ニ終語信號等  
 依リ回報ヲ速ニ開始故ニ電話ヲ莫ク有初ニ活用スル著意ヲ心  
 要トス

2

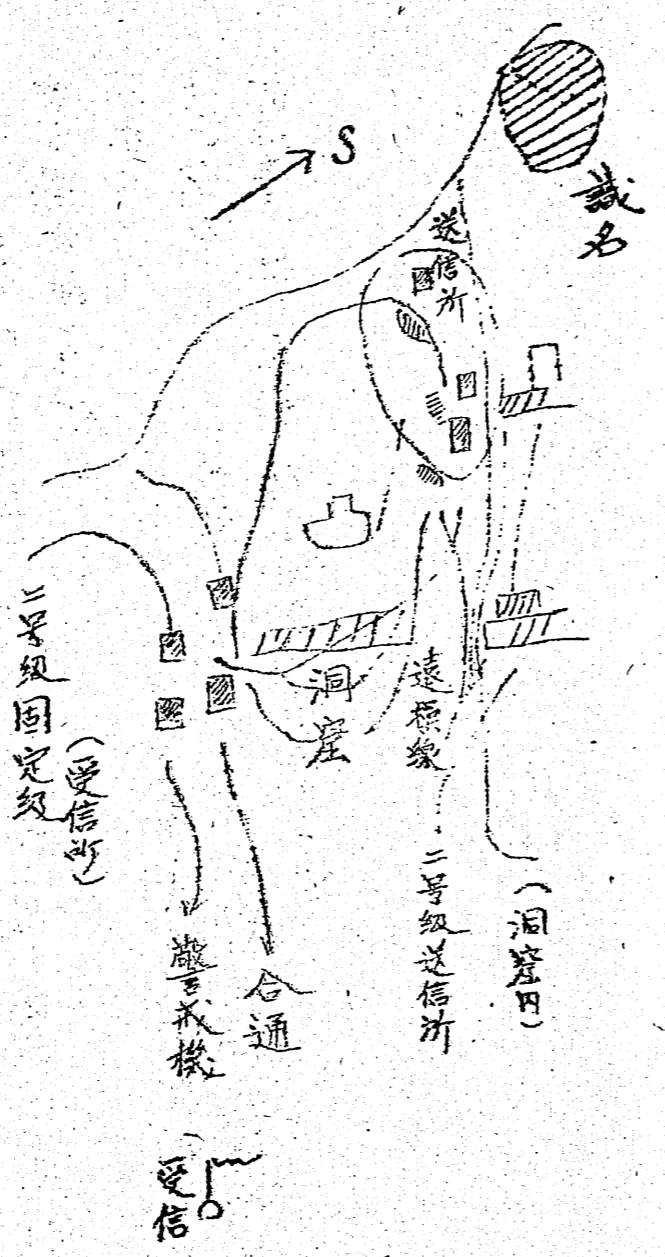
2 又上線線ノ保線ハ砲爆下ニ在リテ電柱倒壊線ノ混乱等依リ通  
 常困難ナルヲ以テ浮レ得ル被覆線ニ依リ溝(埋)設ヲ行フ可  
 トス  
 線線ト雖溝設モ被覆ヲ減少シ得ルヲ論テ復タガルモ軍ニ於テ  
 敵上陸直前此島ニ輸送スル被覆線ヲ相當量保有シアリシ  
 為ニ依リ便宜ヲ得タリ

被爆線ハ砲彈ニ依リ三百米位飛散スルコトヲ敵彈狀況依リ線  
路ノ自然ニ變形シ、位置及形狀等ハ遂次ニ變更ヲ加フル必要  
ヲ生ズ

無線

1. 敵ノ無線情報部隊ニ對シテ確證ハ得ズモ我通信中樞ニ對シテ  
標定ニ集中シテ砲爆殺ヲ加フモノガ如ク從テ陽信位置ヲ設  
置シ隔遠離ニシテ價値大ナルベシ
2. 固定通信所ハハトシテ防禦中ニ設置スルコト有利トシ、單ハ強固化シ  
テハ防禦上ハ〇〇キロ爆彈ノ抗堪ニ得テ固定親ノ無線通信所ヲ  
設置ス、但シ濕氣ニ對シテ処置ニ注意スルコト要ス

3. 固定無線及ニ號無線機ハ之ヲ遠操裝置トシ遠操線ノ斷線ニテ補  
修ノ容易ヲ考慮シ送受信所ハ勉テ距離ヲ縮少シタルニ遠操機斷  
線ノ續カス爾後遠操線ヲ溝設シタル結果若干斷線ノ減少ヲ見タルニ  
相當被害ヲ頻ナセリ尚溝設ヲ徹底シ且豫備遠操線ヲ構成シテ



クラ可トス

4 二號無線機ヲ司令部近ク洞窟内ニ設置シタルニ砲爆撃ノ後相互ノ連絡ノ困難ニテ電報ノ賴信及配達ニ相當苦勞ヲス  
交通壕或ハ峭壁ノ遊傳壕ヲ設ケ砲爆ノ間隙ヲ迅速ニ行動スルヲ可トス

### 三 通信裝備

- 1 砲爆ニ依ル損耗、連絡箇所増加及雜部隊ノ戰鬪部隊改編等、爲此等ニ相當量ノ有線資材ノ配當ヲ要シ有線ニ在リテハ編成制ノ二倍、無線ニ在リテハ三倍ノ通信裝備ノ必要ヲ痛感ス之ヲ爲制式資材ニ依存スルコトナク司令部通信部隊自ラ在來線等施設活用、市井物資ノ收集等ニ著意スルコト必要ナリ
- 2 通信器材損耗及補充
  - 1 五號無線機ノ戰鬪間ノ損耗ハ著シ
  - 2 乾電池ノ不足ハ澆刺スルヘキ通信實施ヲ阻害ス

乾電池節約爲高等司令部リモハ少クモ乾電池ニモ受信ヲ排シ蓄電池又ハ整流器ヲ以テル自己発電電源ニ依ル如ク施設スル要大ナリ 現地ニ於テハ若クハ實施中ナルモ勞苦時間共ニ大ニシテ能率ノ發揮ハ未ダ十分ナラス

3 器材ノ節約及連達ノ見地ヨリ聯隊以上ノ群通信方式(又ハ放送)ヲ採用スル如ク通信教育ヲ行フヲ利トス

### 四 軍ノ第一線通信及暗號ノ增強

- 1 第一線部隊ノ通信及暗號戰力低下ニ伴ヒ軍ニ於テ之ガ補強ヲ策スル如ク処置セリ
- イ 對空無線機軍砲兵部隊ニ
- ロ 通信聯隊ヨリ約二百名特ニ第一旅團(貨物廠兵站兵器廠ニテ編成)ニ三十数名ヲ配當ス
- ハ 軍通信隊ヨリ第一線各部隊ニ隨時有線ヲ補填シ又ハ其ノ通信ニ協力セシム